

最近の家計収支の特徴

1 天候不順や自然災害による支出の変化

平成16年は、前年の冷夏から猛暑、夏以降は台風の上陸が過去最多となり、10月23日には新潟県中越地震が発生するなど天候不順や自然災害に見舞われた。

(1) 天候不順の影響

猛暑で夏季商品や電気代が増加

平成16年の夏は、平均気温が高く、猛暑となった。

1人当たりの夏季商品の支出について月別に冷夏の前年と比べてみると、平成16年で特に気温が高かった7月のアイスクリーム・シャーベット、茶飲料の支出金額は、それぞれ364円、202円で、それぞれ前年の257円、144円に比べ名目41.6%、40.3%の増加となった。また、7月のビールと発泡酒を合計した購入数量は2.11で、前年の1.96に比べ名目7.7%の増加となった(図29)。

一方、前年は冷夏で支出が増加したカップラーメンを含む即席めんの購入数量は122gで、前年の152gに比べ名目19.7%の減少となった(図30)。

また、猛暑は光熱費にも影響を与えている。光熱費の支払いは使用した月の翌月となることが多いため、8月で比較すると、夏季に冷房器具の使用などにより支出が多くなる電気代は、平成16年は3,251円で、冷夏であった前年の2,724円に比べ名目19.3%の増加となった。一方ガス代は、平成16年は1,232円となり、前年の1,441円に比べ名目14.5%の減少となった(図31)。

図 29 1人当たりの夏季商品の支出(全国・全世帯)

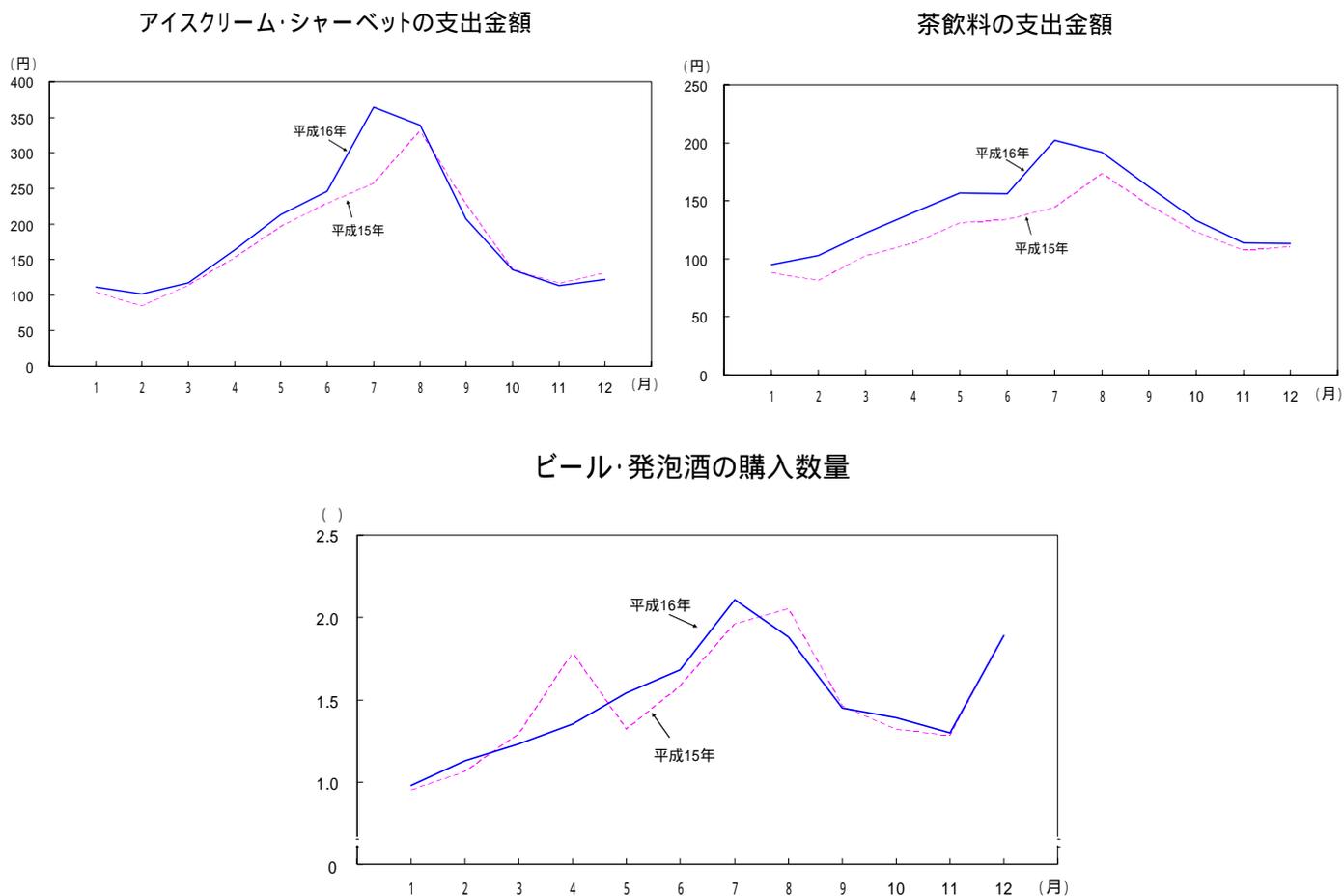


図 30 1人当たりの即席めんの購入数量(全国・全世帯)

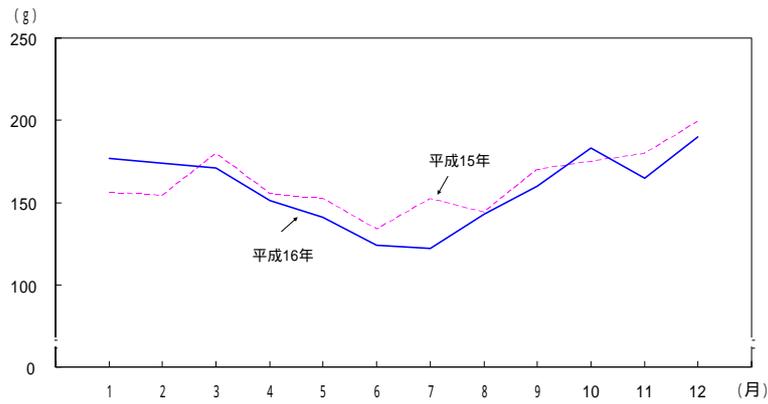
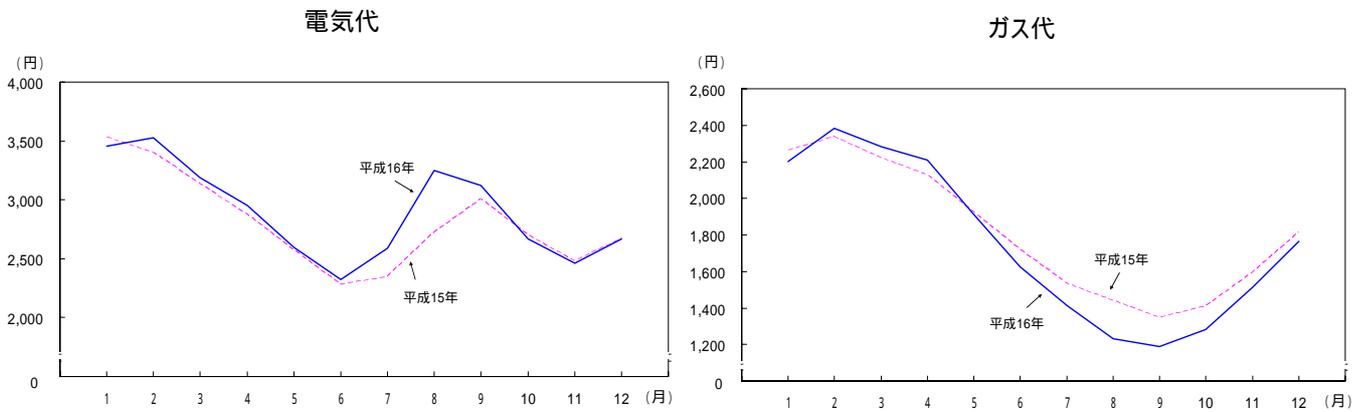


図 31 1人当たりの電気代とガス代の支出金額(全国・全世帯)

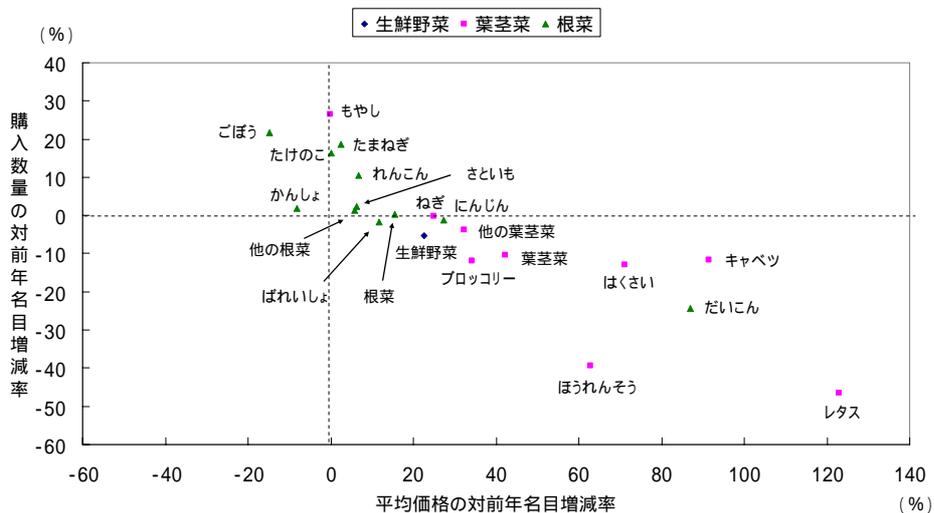


生鮮野菜の価格が上昇し購入数量が減少

平成16年は、台風などの天候不順の影響で野菜の価格が上昇した。

生鮮野菜について、平成16年の10月と11月を合計した購入数量と平均価格の関係を対前年名目増減率でみると、レタスやキャベツなどの葉茎菜が、ごぼうやたけのこのなどの根菜に比べて平均価格が上昇し、価格が上昇するほど購入数量が減少する傾向となっている(図32)。

図 32 生鮮野菜の品目別購入数量と平均価格の対前年名目増減率(10月と11月の合計)
(全国・全世帯)

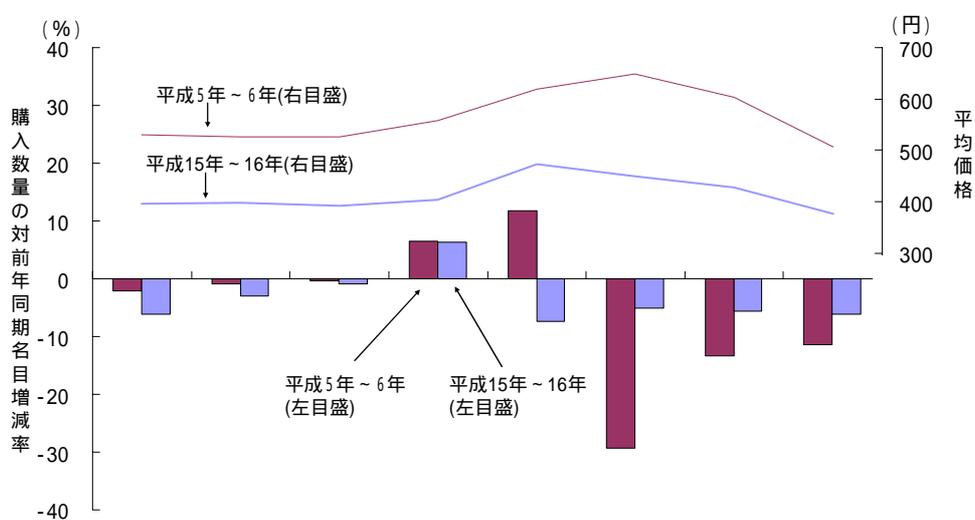


米の購入数量の名目増減幅は10年前の米不足時に比べ縮小

米の購入数量の対前年同期名目増減率と平均価格の動きを四半期別にみると、10年前の平成5年から6年は冷夏による米不足が深刻な問題となり、購入数量は5年10～12月期から6年1～3月期まで増加し、その反動で4～6月期は大幅に減少した。また、平均価格も平成5年10～12月期から6年4～6月期まで上昇し、7～9月期から低下して新米が出回る10～12月期に前年を下回った。

一方、平成15年の冷夏の影響は10年前ほどの影響はみられず、15年10～12月期に購入数量が増加した後、16年1～3月期以降は減少が続いたが、深刻な米不足となった6年4～6月期以降のような大幅な減少はみられなかった。また、平均価格も1～3月期に一時的に上昇しただけでその後は低下している(図33)。

図 33 米の購入数量の四半期別対前年同期名目増減率と平均価格(全国・全世帯)



(注) 1. 平成5年～6年の米は「うるち米」と「他の米」を合計したもの

2. は1～3月期, は4～6月期, は7～9月期, は10～12月期を表す。

(2) 寄付金

震災後に増加した寄付金への支出

災害などの募金が含まれる寄付金について、1世帯当たりの年間の支出金額をみると、平成7年は、兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)が発生したことなどから5,834円と多くなっている。その後、年々減少傾向にあったが、平成16年は新潟県中越地方で震度7の地域を含む地震が発生したことなどから3,224円と前年に比べ増加している(図34)。

また、平成7年、8年から15年までの平均及び16年の3区分で支出金額を月別にみると、8年から15年までの平均支出金額の動きに比べ、7年は1月の1,841円及び2月の1,018円、16年は10月の452円及び11月の538円と、いずれも地震の発生した月とその翌月に増加している(図35)。

図 34 寄付金の支出金額の推移(全国・全世帯)

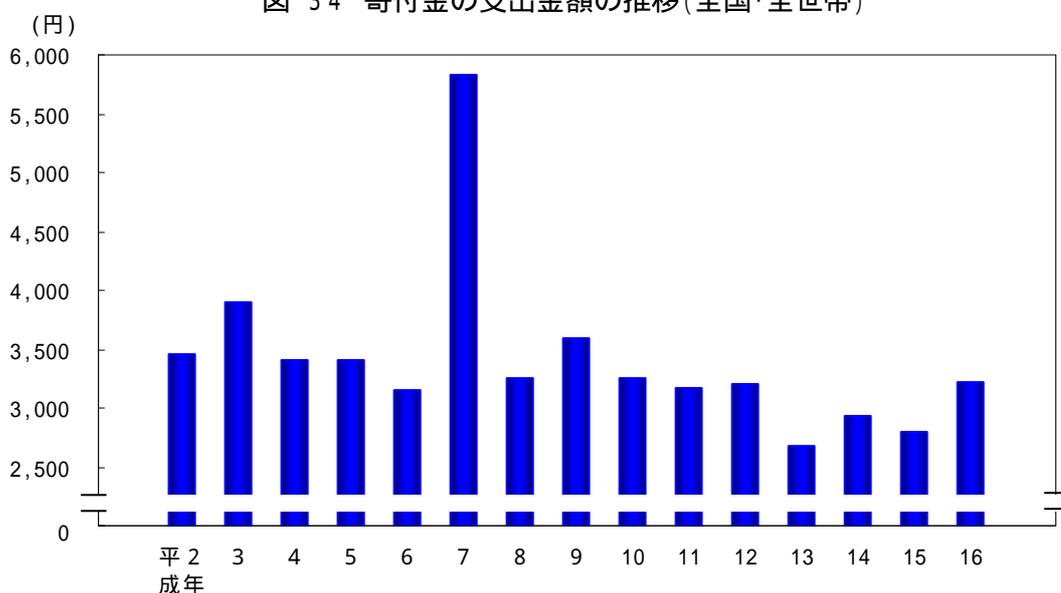


図 35 寄付金の月別支出金額の推移(全国・全世帯)

